

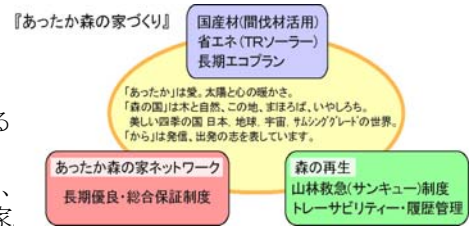
提案名	あったか森の家（長期エコ住宅）と山の循環活性化	分野	木造等循環型社会形成の分野に係る提案
提案者	株式会社 あったか森の国から	種別	システム提案
構造	木造住宅（在来軸組）	建て方	一戸建ての住宅

■提案の基本的考え方

『あったか森の家』は、[榊あったか森の国から]とパートナーショップ参加工務店29社が「自然・環境・エコロジー」をテーマに、地域の森の恵（国産材）と太陽（自然エネルギー）の力を最大限有効に使った日本の長寿命住宅を目指して開発、販売、維持保全を行っていくことに視点を置いて考えられた家づくりのシステムです

1. 100%国産材を使用した家づくり（間伐材の活用）

住宅は地域特性、特にその土地の気候風土を重視して建てられるのが理想と考えます。「あったか森の国から」グループの中心となる榊館林の前身である榊館林林業は創業元禄元年（1688年）という歴史を誇り、恵那地区で320年間にわたって林業を営んできており、良質な東濃ひのきや杉材などを提供しております。『あったか森の家』では、これらの厳選された原木から加工された製材を主要構造材に使用しています。又、限られた資源を最大限有効利用すると同時に、山を再生していけるよう間伐（小径木）も羽柄材や外構部材などに使用しています。



2. 太陽エネルギーを利用した床暖房、給湯システムの採用

『あったか森の家』は、冬の寒さを解消するために、独自開発の「TRソーラー」（スーパーひだまり工法）を取り入れています。屋根上の集熱パネル内の不凍液は太陽熱によって約60℃まで温められて一次蓄熱槽に蓄熱され、その温水が床下に張り巡らしたパイプにより床暖房をします。床温度は、コンクリートまたは潜熱蓄熱体の働きと、高断熱・高気密仕様との相乗効果で1階の床面で25℃、室内も20℃の温かさを確保し、蓄熱効果で真冬でも快晴であれば翌日まで暖かい効果が続きます。床暖房で余った熱は300リットルの貯湯槽に貯められ、夏には、70℃にも湧き上がります。



3. サステナブル・プランコード（長期に利用するための設計基準）設定

『あったか森の家』では、長持ちする家づくりのために、基本的な設計プラン基準を提案し、その設計プラン基準に則った計画を推奨しております。寒冷地で多雪地域の多いエリアに特徴的な経年劣化要因を分析し、こうした要因から長期にわたって家を守っていくための工夫を考慮した設計条件を作ると同時に、痛み易い外部部材や使用頻度の高い内部部材、設備機器などについて、その耐久年数の目安を提示すると共に、交換し易い設計・施工方法を明確にしていけるようにしています。これらの設計基準・施工基準は建築時に提示のうえ利用していく他、点検・改修工事に対しても有効な指標となります。

4. 『あったか森の家』ネットワークの拡充（普及、波及）

『あったか森の家』事業は、真に快適な生活創造を目的とし、生活者のニーズに合った住宅を提供するために、システム化されました。このシステムは、住まいのコンサルタントとして、地域づくり・環境づくり人づくりを行っていくものです。地元産出の再生可能な木材の提供とともに、省エネルギー、長期耐久性、人の健康増進への効果などの特徴について更なる周知を図り、普及率を向上させるために、今までのモデル住宅に加え、今回の採択に合わせて新たに長期優良住宅仕様モデル棟を建設する（平成23年4月竣工予定）と共に、パートナーシステムの充実を図り、会員工務店の増加と、各会員ごとの施工数の拡大を目指して全国に普及させていきます。



